

敗つた雪辱を果たし、3つ白星を並べた。三日目は取り直しの末、徳ノ虎との熱戦を制した。部屋のライバルである島内には水をあげて追いつきたいところである。

今場所の錦風勢の幕下力士は5人となり、桐壺部屋の6人に次ぐ人数となっている。当然ながら錦風親方の期待は、若手の逆起、逆馬山、虹ヶ谷の3人だ。三日目は初戸以外の4人が勝ち、逆馬山がこちらも優勝候補と見られていた春日根部屋の音柱を寄り切って3連勝とした。四日目小兵の洪野をどうさばくのか楽しみみな対戦となりそう。

7年振りに幕下に返り咲いた富士の海だったが、今回も勝ち越しには至らず3連敗で陥落となった。

### 三段目、序の口

三段目での3連勝は松山、自力岳、木幡、桜庭の4力士。松山は二枚目での勝ち越しとなり、大松戸部屋としては116回場所の木田以来の有望の幕下力士の誕生となりそう。

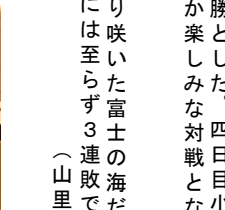
もはや育成会では古参となった九十九部屋の三段目勢の木幡、桜庭、桜塚だが、今場所、木幡、桜庭が3連勝、桜塚も2勝1敗と好調だ。



洪野○(寄り切り)●徳ノ虎



音柱●(寄り切り)○逆馬山



山内●(寄り切り)○松山



山内●(寄り切り)○松山



木幡●(寄り切り)○太鳳錦



自力岳●(寄り切り)○桜塚

幕内十両で活躍している九十九勢と体格的には遜色ないだけに、今場所をきっかけに大化けするかもしれない。



徳ノ花●(寄り切り)○難波山

序二段は碧錦、戸田、火百、強久根が3連勝。三段目の松山に続き、序二段でも戸田が3連勝と好調だ。

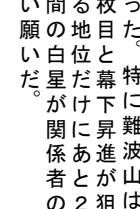
また、桐壺部屋で稽古を積んだ松ヶ神部屋の碧錦が先場所続き、好調をキープ。松ヶ神部屋の力士の潜在能力を開花させた桐壺親方の指導力が注目を集めている。



他力岳●(寄り切り)○桜庭



綱櫻●(押し倒し)○難波山



柳川●(寄り切り)○戸田



碧錦○(寄り切り)○亀風



戸田○(寄り切り)○柳川



金将山●(押し倒し)○火百

序の口の3連勝は紅の華、石神井、黒盾。石神井は先場所千秋楽、櫻吹雪の悲劇を目の前で目撃し、発奮した住之江親方が送り込んだ逸材。同時に初土俵を踏んだ石神井は星があがっていないだけに、奮闘を期待したい。



若肘木●(押し倒し)○紅の華



桃天龍●(引き落し)○石神井



英紫吹●(寄り切り)○黒盾



栃ノ浪●(押し倒し)○強久根

### 人事往来

【監事】  
(旧) 六角(元名護)  
(新) 霧ヶ浜(元英皇)

紙面の都合で掲載が遅れたが、今場所の番付発表に先立って今年の役員体制が発表され、新役員として監事に霧ヶ浜親方(元英皇)が選任された。暫く協会から遠ざかっている六角親方(元名護)と交替となった形だ。

### 古今東西

#### 紙相撲豆知識 ⑥2 新横綱連勝記録

新横綱千代鈴が初日から土つかずの7連勝と場所をけん引している。

記録が残る横綱は7代目の富士昇以来20人だが、初日からの7連勝は6連勝の岩湊を抜いて単独3位と堂々たる成績だ。

今場所は他の横綱大関も好調なだけに厳しくはあるが、過去、扇灘しか達成していない新横綱の全勝優勝を果たしてほしい。

① 扇灘	17	連勝	◎	(輝雄山)
② 富士昇	17	連勝	◎	(荒登)
③ 千代鈴	7	連勝	◎	(鼓里)
④ 岩湊	6	連勝	*	(錦里)
⑤ 田子浦	5	連勝	◎	(岩島津)
⑥ 鞍ノ城	4	連勝	◎	(隅田川)
⑦ 英勇	4	連勝	◎	(大嵐)
⑧ 蛭勇	4	連勝	◎	(大嵐)
⑨ 富士登	3	連勝	◎	(大嵐)
◎は優勝、( )内は初黒星相手				

霧ヶ浜親方は若柱、若巨、若佑といった幕内力士を輩出するとともに賜杯や三賞のトロフィーを提供、昨年は毎場所の千秋楽に北海道北見から欠かさず参加するなど、協会への貢献が評価された模様だ。

また、先代親方の突然の退職を受けて最年少親方となった香具山親方(元夢力)が平年寄から主任に昇格した。先代は委員、役員待遇として協会運営に携わっており、先代同様に運営への参画が期待されている。